



2024年の国際関係で最もリスクが高い要因はウクライナ、ガザの二つの戦争がどう展開するのか。そして、米中関係が小康状態を保ったまま推移するのだろうか。この二つの要因は、いずれも11月に大統領選挙を迎える米国国内政治情勢に左右される。今日、米国メディアの支持率統計では、トランプ前大統領

国際情勢の行方

日本総合研究所国際戦略研究所
特別顧問

田中均 氏

領がバイデン大統領を上回りだしている。トランプ前大統領は四つの刑事訴訟を抱え、通常の大統領選挙では大きなマイナスイヤとなるのだから、トランプ氏の岩盤支持層には、ほとんど響いていない。

トランプ前大統領の真骨頂は「反体制」であり、訴追はバイデン陣営の「魔女狩り」という宣伝が効いているため、裁判手続きが進んでもトランプ前大統領にとって、さ

ほど不利にならないのではないか。
一方、バイデン大統領は「高齢」が日々目立ち

も米議会および欧州諸国のウクライナ支援は危うく、ガザについては、米国の指摘にかかわらず、

であり、結局はウクライナの戦争でロシアは有利な地位を固め、ガザでもイスラエルの非人道的攻撃は止まず、そしてバイデン大統領の人気はさらに下降することになりかねない。民主党がバイデ

米国の政治状況に左右

バイデン大統領、弱さ克服が課題

だしており、民主党支持者の間にも大きな不安が高まっている。ウクライナについては、バイデン大統領がいくら頑張って

民間人を巻き込むイスラエルの攻撃が止むことはない。これらはバイデン大統領の弱さと評価されがち

ン大統領に代わる候補者を立てればともかく、バイデン大統領のままであれば大統領選敗北となりかねない。

このような米国政治状況の混迷を中国はどう見るのだろうか。23年11月のサンフランシスコでの米中首脳会談は対決を衝突につなげないための軍軍対話の再開に合意し、特段のことがなければ米中関係は衝突なく管理されていくことになるのだろう。

選の結果、与党・民進党が勝利する場合は、中国は軍事演習で台湾けん制を強め、台湾海峡情勢が緊張する場合も想定される。国内政治情勢が必ずしも有利には展開していないバイデン大統領としては、米国内を見つづ強硬に対応する余地が残る。

ただし、台湾海峡情勢には繊細な注意が必要となる。今年1月に行われる台湾総統選では、今のところ民進党の頼清徳副総統の有利が伝えられるが、確定的な差はない。国民党候補は追い上げていくと伝えられる。総統